

# 核データ情報評価専門部会

## データ検索システムW.G.4 5年度第3回会合議事録

日 時 昭和45年11月19日(木) 13:40~17:20

場 所 日本原子力研究所東海研究所 v,d,G建屋 29号室

出席者 浅見哲夫(原研) 五十嵐信一(原研)

加藤和明(原研) 川合将義(NAIG)

河原崎雄紀(原研) 中川庸雄(原研)

中嶋竜三(法大) 西村和明(原研)

更田豊治郎(原研)

### 配布資料

- 前回議事録
- コンピュータ調査報告の目次とまえがき

### 議 事

#### 1. 原研計算センターの次期大型コンピュータの紹介。(更田)

最近明らかになつたところでは、全部で次の様な4つのシステムをもつことになるようである。

システム1. FACOM 230-60 (現在よりも磁気コアを増す)

システム2. " " ( " " )

システム3. FACOM 230-35 (オープンで使用し、CRT表示装置をつける。通信制御装置もつけるが、詳細は未定)

システム4. FACOM 230-25 (事務用)

4つのシステムは来年度中には稼動する予定である。これらのシステム導入は、我々の考へている専用コンピュータの導入と密接な関係があるが、我々のこれまでの議論の中では、計算センターの次期システムについてこのような具体的なイメージは欠けざるを得なかつた。

#### 2. NEUDADAの書き換えの現状、および今後の予定

##### ○ 現 状(五十嵐)

当初予定したPL/Iでのプログラムテストを終り、さらに予算を、70万円追加(重い核ワーキング・グループから回わしてもらつた)し

てFORTRAN IVへの書き換えも終了した。

FORTRANでのテストは、データを格納するところまでは終つたが、検索の部分は行つていない。IBMでの作業は9分通り終つたと言える。

#### ○ 今後の予定

予算を30万円追加(従つてNEUDADAの書き換へは全部で170万円になる)し、IBMでの作業(残つているのは検索のテストランが主)を年内に終了して、プログラムを受けとり、原研のFACOM 230-60に移す作業を行う。

データの格納に関しては、現在までに磁気テープで入手したデータの一部を入れることにしたが、コメントについては、磁気テープになつていないためリストからパンチしてカード化する作業が困難であり、割愛することにした。なお、格納するデータについては今後CCDNから全データおよび全コメントを磁気テープで貰つて定期的に格納することも考えられるが、これは本委員会でも検討されるべき問題であるので、とりあえず、以上の様にしてNEUDADAを試用する予定にしたものである。プログラムの修正に関しては、次の議題であるCOMFORDとも関連するが、COMFORDフォーマットでのアウトプットができる様にする、同じデータは格納できない様にする、グラフのアウトプットもできる様にする等が提案された。これらについては今後さらに検討する余地がある。

タイムスケジュールとしては来年3月末までに原研である程度まで動かすことができる目標とする。

来年度の予算は、COMFORDにも関連して、NEUDADAの修正等のために外注費を要求する方針とした。

#### 3. COMFORDについて(更田)

CCDNにいる岡本氏からNEUDADAに入つている共鳴データを、COMFORDに入れてはどうかという提案が、最近核データ研究室と、更田委員にあつた。CCDNの意図するところや、実際の作業内容について不明の点が多いので今、詳細を問い合わせているところである。

#### 4. コンピュータ調査報告について

報告書の第一次案に対して出された各委員の意見を入れて、第二次案を

作成した。

今後「データの格納検索」に関する部分は全員の、それ以外の部分は一部（加藤、川合、五十嵐、西村各委員）の意見を聞き、更田、中川両委員が、さらに推敲してまとめ、12月末までにJAERIレポートの調査報告として投稿することにした。

なお、第二次案で未稿の「他のデータセンターのコンピュータシステム例」については、川合委員がCCDNの岡本氏に連絡し、調べることになった。

#### 5. その他

今後は会合と会合との間における委員間のコミュニケーションを改善すべきことが指摘された。

#### 6. 次回

- 1月18日(月) 東京
- 議題 1. NEUDADA の現状と予定  
2. その他

—以上—